

平成24年度事業報告書

1 概況

平成24年3月21日に鳥取県知事より「公益社団法人として認定する。」との「認定書」を受け、同年4月1日法人登記を完了して、公益法人に求められている「広く不特定・多数の者の利益の増進に寄与」する活動を地道に実施していくこと誓って、新たなスタートをいたしました。

私ども法人会は、「税のオピニオンリーダー」を目指し、活動の第一の柱に「税の啓発活動」を据え、税制の調査・研究とともに「正しい税知識の普及」「納税意識の高揚」を図るべく、各種の事業を実施してきました。併せて、「良き経営者の団体として、企業経営及び地域社会の健全な発展に貢献」を図ることを活動の第二の柱で据え、「地域とともに活動する法人会」としての地域貢献活動も行ってきました。

「税」という普遍の課題に向けて、一步一步確実な歩みを行ってまいりました。

2 主な実施事業の概要について

(1) 公益目的に資するための活動

当会は「公益社団法人」の認定を目指して、従来から取り組んできた税の理解を深め、かつ企業経営及び社会の健全な発展を目指した「公益目的事業」の推進を主要活動として、2大主要テーマに取り組んでいます。

イ 「税を巡る諸環境の整備改善等を図る（税の啓発活動）」事業

(イ) 研修相談事業

正しい税知識の習得、税務会計処理など全法連作成の各種教材を活用して、より「身近な問題」や「実のある」研修会を目指して実施しました。

特に、年末調整の研修会は、地元商工会、商工会議所とともに、「正しい税務処理」の研修にも努めてきました。

(ロ) 租税教育事業

・ 租税教室

少年少女期の租税教室の重要性が叫ばれ、「鳥取県西部地区租税教育推進協議会」に参加して、東部支部役員、青年部会及び女性部会の役員、新たに日野支部会員・役員による「出前授業」方式による租税教室を、当会の主要事業として取り組んできました。「健全な納税者意識のより一層の向上に向け、今後とも官民が協力して租税教育の更なる充実を目指す必要」性を訴えています。

・ 税に関する「絵はがきコンクール」及び作品展示会の開催

鳥取県西部地区の全小学校に呼びかけ、「税について習ったことや感じていること」を絵はがきに表現してもらおうと、昨年「絵はがきコンクール」を開催。28小学校の児童から686点の応募があり、2月16日から2月末の間、「米子しんまち天満屋」で応募作品の展示会を開催するとともに、同2月20日（水）ご家族をはじめ多くの方々の参加いただき、盛大な優秀作品表彰式を開催することができました。

(ハ) 税制提言、e-Taxの利用促進事業、

「税と社会保障の一体改革」が叫ばれている現在、中小企業の事業活性化、相続税における「事業承継税制の改善」を求めた「平成 25 年度 税制改正の提言書」を、地元国会議員をはじめ、米子市及び境港市の市長及び市議会議長に手交し、その実現への取組みを要請してきました。

また、ICT社会の浸透の中で国税庁が取り組んでいる「電子申告納税システム」の普及には、法人会も挙げて会員への浸透を推し進めており、目標を掲げて普及浸透を図ってきました。

本年、個人納税者の e-Tax の利用促進に向けて、公民館活動でのパソコン教室での「操作研修」を試行的に実施しました。

(ニ) 広報事業

新しい税情報の提供のほか、従来に増して「地域情報誌」としての地域情報を積極的に取り上げ、「楽しく、読みやすい」会報誌を目指し、年 2 回の会報誌を発行しました。

公益社団法人としての「地域情報誌」として、社会貢献活動の紹介を通じて「企業の社会的責任への取組み」を訴え、より多くの企業に「法人会への参加」を求めて活動してきました。

(ホ) 「税を考える週間」協賛街頭キャンペーン事業

今年の「税を考える週間」の街頭キャンペーンは、理事のほか青年部会・女性部会の役員・会員の方々、賛助会員の皆さんにより、イオン日吉津ショッピングセンターのほか、イオン駅前店、ホープタウン、また、米子間税会のご協力を得て、米子高島屋の計 4 か所で実施しました。

今年も法人会のシンボルキャラクター「ケン太くん」、国税庁の e-Tax キャラクター「イータクくん」の着ぐるみの参加も得て実施できました。

(ハ) 税の無料相談事業

恒例となっている、税理士会との共催による「税の無料相談会」を確定申告の時期に合わせて、米子高島屋・プラント 5 境港店の 2 か所で開催しました。又、この機会を活用して、米子法人会の活動内容を紹介する「パネル展示」も行いました。

ロ 地域社会の健全な発展及び社会貢献を目的（地域貢献活動）」とする事業

(イ) 経営支援事業

地域企業の健全な発展こそが「活力ある社会」の創生に向け、教養や経営の講演会や健康セミナーなど、幅広い視点に立った研修会などを開催しました。

(ロ) 社会貢献事業

地域社会との「共生」を目指し、地域社会の健全な発展に寄与することを目的に会員の知恵と労力を出し合って取り組んできました。

- ・ 古布・古タオルの回収及び老健施設への寄贈

年2回、会員企業をはじめ多くの方々の協力を得て、古布・古タオル類が各回とも2トントラックに満載となる量が回収でき、6か所の施設に寄贈してきました。

- ・ 米子市湊山公園整備事業協賛
地球温暖化防止とともに地域環境整備への支援として、引き続き「さくらの木」寄贈、植樹を行いました。
- ・ 東日本復興支援イベントの開催（チャリティーゴルフコンペ）
東日本大震災から3年が経過しながらも、その復興度は今ひとつ1実感されない現状です。そうした中、復興支援は今後とも息の長い支援活動が重要と考え、第2回「がんばろう日本！チャリティーゴルフコンペ」を開催し、76名の方々のご参加をいただき、集まった募金14万円強は「宮城県」に義援金として寄贈しました。
- ・ 地域イベントへの協賛、参加
日野支部の恒例事業である「地元イベントへの協賛による、地域活性化事業」として、日南町「食のバザール」に協賛・参加しました。
- ・ 地域文化振興への協賛、講演会等の開催
日南町「食のバザール」開催に合わせ、地元無形文化財の「日南神楽」の公演に協賛し支援しました。

(2) 会員の福利厚生や会員相互交流等に資するための活動

(イ) 福利厚生事業

会員の福利厚生に資する事業とともに、法人会財政基盤の確立に重要な事業でもある「経営者大型補償制度」推進とともに、提携保険会社（AIU 保険会社、アフラック）の紹介や講演会の共同開催を行って、一層の制度普及推進に取り組みました。

(ロ) 会員支援、交流事業

「多種多様な企業の団体」という法人会の特色を活かした会員交流会を通じ、会員相互の新たな「交流の輪」を拡げることができました。

(3) 会員増強及び組織充実に資するための活動

平成12年をピークに会員の減少傾向に歯止めがかからず、会員数が2,000社を切るという事態を迎え、会員増強月間を設けて取り組みましたが、会員2000社の確保となりませんでした。

公益社団法人としての活動を継続するためにも「会員数の確保」が喫緊の課題となっており、引き続き「会員増強」への取り組みを推進していく必要があります。

< 支部別会員状況 >

(3) 支部及び部会活動

イ 支部活動

法人会組織の活性化には、「地元に着した法人会」支部の活動が何より重要であり、「活動の原点は支部に」をテーマに各支部交流会や役員会を通じた支部会員の交流に視点を置いた「交流会」を開催し、組織に充実を図ってきました。

ロ 青年部会・女性部会

会員同士の切磋琢磨と自己研鑽を通じ「時代を担う経営者を目指す」「女性の視点で地域社会に貢献活動を」と、各種の事業に取り組んできました。

特に、小学生の租税教室、絵はがきコンクール、をはじめ古布・古タオルの回収・寄贈活動など、法人会活動の主要テーマである税の啓蒙普及活動や社会貢献活動の中心的活動主体としての役割を果たしてきました。